

## 授業力の向上に係る校内研修の在り方

～校内研修についての実践的研究と実践資料の作成～

福島県教育センター 調査研究チーム 主任指導主事 石綿 厚

### 1 研究の趣旨

本県の児童生徒における喫緊の課題は学力向上であり、特に、思考力・判断力・表現力の育成が求められている。この課題を解決するには、教員一人一人の授業力を向上させることが必要で、自己課題を明確にして様々な視点から授業を振り返り、授業の質的改善を図るために、校内研修の充実が有効だと私たちは考えている。

また、本県における教員年齢別男女構成比を見ると、教師の高年齢化が進み、今後、新採用者が増加することが見込まれている。このような状況を踏まえると、授業の質的改善に向けた教育活動の活性化、指導技術の伝達のためにも、校内研修の充実が有効であると考えている。

上記の理由から、調査研究主題を「授業力の向上に係る校内研修の在り方」とし、昨年度から2年間にわたり研究を進める上で、副主題を1年次は「県内公立学校の校内研修の実態調査と方法の提案」、2年次である今年度は「校内研修についての実践的研究と実践資料の作成」とした。

昨年度の調査から分かった、県内公立学校における校内研修の実態を踏まえて考案した、個人の授業力向上につながる校内研修システムを、今年度は、小学校2校、中学校1校の研究協力を得て、有効性の検証と提案の修正を、実践を通して研究している。

### 2 研究の概要

(1) 研究協力校における実践的研究に基づいた、校内研修の提案と有効性の検証

- ① 「授業改善ハンドブック」を基にした授業力分析方法の提案
- ② 事前研究・研究授業の参観、事後研究の効果的・効率的な進め方の提案
- ③ 自分の授業を見直し、改善する方法の提案

(2) 授業研究改善に向けた資料「授業研究ハンドブック（仮称）」の作成

- ① 実態調査から
  - 調査結果の概要と見いだされた課題
- ② 校内研修の進め方（理論編）
  - 4つの提案（課題の明確化、授業研究の活性化、取組の焦点化、取組の日常化）
  - 全体構想
  - 校内研修12か月
- ③ 校内研修の実際（実践編）
  - 研究協力校3校の取組

### 3 研究の経過（現時点での成果と課題）

(1) 研究の成果

研究協力校3校での実践はまだ中途の段階であるが、現時点における成果の一部として、次のことが挙げられる。

- ① 研究実践に当たり、研究協力校の研修主任等と連携して、提案する校内研修システムを、学校の実態に応じて取り組みやすい形に柔軟に変形することで、学校の特色を生かした校内研修システムにすることができた。
- ② 研究協力校において柔軟に変形した校内研修システムに基づいて、授業研究を中心とした実践を繰り返すことを通して、少しずつ同僚性・協働性を発揮して授業研究が活性化してきており、効果的・効率的な授業研究が行われるようになってきた。
- ③ 同僚性・協働性の高まりとともに、事前研究会や事後研究会において、授業づくりや教材研究などについて活発な話し合いがなされ、校内研修を通じた指導技術の確かな伝達が行われた。
- ④ 授業力チェックシートを再度活用して、年度始めの結果と比較したところ、課題としていた項目の評価が向上している教師が多く見られた。 など

(2) 今後の課題

研究協力校3校での実践において、今後も継続して各学校の実態に合わせて工夫しながら実践研究を進めていき、校内研修システムの有効性を検証していきたい。また、授業研究改善に向けた資料「授業研究ハンドブック（仮称）」の作成について、研究協力校3校での実践と並行しながら、校内研修の実際（実践編）として資料を追加して完成させて配付し、研修等の機会を捉えて、授業研究改善に向けた活用を呼びかけていきたい。